

令和3年度三ヶ日青年の家指定管理者候補者選定委員会（2次審査）議事録

日 時 令和3年8月4日(水) 午前9時40分から午後2時30分
場 所 県庁別館9階第二会議室

— 開 会 —

— 社会教育課長挨拶 —

— プレゼンテーション・ヒアリング —

<遠鉄アシスト株式会社>

※プレゼンテーション（25分）省略

— ヒアリング要旨 —

（委員長）最初に全般的なこととして、提案事業と安全管理体制の実現性について、伺いたい。

1つめは社会教育施設として、自主事業と団体受入事業を両立させながら社会教育をどういう考え方でやっていくのか。

2つめは、繁忙期の所員体制をどのようにしていくのか見通しを教えてください。

3つめは、受託すると、4月からすぐ海洋活動や安全マニュアルの運用が始まることになるが、スケジュール感の見通しを教えてください。

（申請者）社会教育施設のあり方として、基本的には小中学校の利用を優先させる。主催事業は、基本的には土曜日・日曜日で考えている。平日の学校利用に重きを置き、それと並行しながら、主催事業を実施していく。

繁忙期は、5泊6日の長期宿泊体験がメインとなって予定を組み立てるが、それ以外の時期では、春先や秋など、利用が落ちついてきた時期に、1泊2日の宿泊体験の事業を入れるというように考えている。

所員体制についても繁忙期には出勤を厚くし、閑散期には少し薄くするというような体制をとっていきたいと考えている。

引き継ぎのスケジュール感については、今後、重要なポストは、弊社で現在雇用している人間を異動させる。10月以降の引き継ぎについては、現行の業務も行いながら引き継ぎに参加する。また適宜、新しい所員の採用活動を行い、採用する場合、グループ内で管理運営している他施設に勤務しながら引き継ぎに参加していただく。

（委員）1つめは、海洋活動の安全対策の情報収集の仕方として、気象情報をウェブサイト等を使って集めることや、近隣マリーナへの聞きとりなど、複数の情報を集めるということだが、実際に活動を行えるかどうか、どのように判断していくのか。

2つめは、近隣のマリーナから得られる情報として、どんなことを想定しているのか。

3つめは、天候不順で予定していた海洋プログラムができなくなった場合、雨天プログラムとしてどんなことを提案されるのか。

(申請者) 気象情報に関しては、サイトの確認とともに、周辺の山に雲がかかってくる、風が強くなるなどの「観天望気」も非常に大事である。近隣のマリーナに湖面の状況の確認とあわせて、天候の変化の予測についての情報を教えていただくことになる。

雨天時の活動は、例えば雨が降っていて、今後風が吹くことが想定される場合は、時間を早める提案をする。団体が希望する活動は基本的に提供したいと思っているが、安全第一で気象など確認しながら実施する。海洋活動の代替プログラムとしては、ロープ結びや手旗などを予定しており、防災学習や浜名湖の生き物の環境学習なども取り入れていく。あくまでも利用団体の希望を最優先し、1泊2日であれば海洋活動を2日目に変更するなどの提案をする形で対応していく。

(委員) 1つめは夏季の休所日の設定について。月曜日を開所するという話だが、職員の休みがなくなる。その中で健康管理と安全管理はどうするのか。

2つめは、食事についてバイキングを想定されているが、何を誰が食べるのか判断を、利用者側に委ねる行為ではないかと感じる。所としてのアレルギー対策と、バイキングとの両立をどう考えたらよいか。

3つめは、フリーWi-Fiスポットの提案について、これは情報セキュリティが不安であるが、どう考えているのか。

(申請者) シフトについては、ワークライフバランスを取るためのシフト提案としている。基本的には、宿直1人と夜勤務をおき、夜間は2人体制で管理させる。翌朝は、宿直者が1人の状態となるため、当日の日直を早目の出勤として、2日目のシフトも2人体制とする。常時事務室には、2人いる体制を考えている。夏季繁忙期のシフトは、利用団体がなければ、早めに上がる形でフレックスタイムなどを導入しながら、職員のシフト管理をしていく。

バイキングに関しては、入所の時に、アレルギーの連絡等をいただくようにする。それを食堂とも共有し、入所時に食堂の担当者から、使用した食材とアレルギーの注意説明や表示をする形で対応する。

フリーWi-Fiについては厳密的に言うとスマートフォンの使用には十分だが、会議での利用は勧めない形で提案を考えている。

(委員) フレックスタイムを導入するということは、逆に言うと、誰がどこにいるかマネジメントするのが大変である。例えば海洋活動の実施判断をするのに、所長と研修統括、海洋活動班の3人がいなければならない。休所日をなくしフレックスにしながらその3人が常駐することは、何か矛盾しているように見えるが。

(申請者) 他施設では、夏は休所日が無く、宿直とは別に所長とマネージャー、また事業マネージャーの3人の誰かが必ず残るというシフトで運営している。(質問の意図は) 責任者の誰かがいなければならない時に休所日をなくすと、休みが取れない懸念があるということであるか。

(委員) はい。

(申請者) 利用団体が減っている状況の中で、計画シフトはもちろんあるが、当日の利用

団体が少なければ、少し減らしていくという形の、フレキシブルな対応をしていきたい。

(委員) 海洋活動の安全についてお聞きしたい。施設の危機管理マニュアルで書かれていることは、この10年ぐらいの間に蓄積してきたものである。提案では、海洋活動の訓練や安全の担保の部分について、県が示しているよりも、多くの時間を充てることになっているが、どのような計画でやっていくのか。

(申請者) 基本的には1泊2日利用では、2日目の午後の時間帯を使って訓練を実施していく。訓練も、水難救助訓練時には、沖に出るまでに漕艇のシミュレーションをし、その後救助訓練や曳航訓練、緊急上陸訓練など、様々な状況に応じた訓練を組み合わせしていく。また気象によっても、少し風が強い時に訓練を行うなど、充実させていく。

(委員) 利用者の目線で2つのことを確認する。食の提供は子どもたちにとって非常に楽しい時間である。バイキング方式は子どもたちにとって、楽しいプログラムだとは思いますが、全体のコストは抑えられる一方で、食材は安心・安全なものを提供できるか。また、廃棄食材が増えてくる可能性もある。SDGsや環境教育の観点から、余った食材の廃棄以外の活用方法について、子どもたちに伝わるような形で扱うことができるのか。

2つめは、社会教育施設であるという面と、事業として収益性を上げていく面とのバランスがあると思うが、夏の長期休暇や土日を中心として、収益のための自主事業を入れることは、一般の社会教育団体が利用しにくくなるなど、過度な営業化によって施設を利用しにくくなるという声もある。この部分について、バランスをどう取っていくのか。

(申請者) バイキングについては、グループの中でホテル事業をしており、そのレストラン部と連携する。また食材の廃棄については、環境学習として、自主事業の中でSDGsについて扱う形でケアしていきながら、子どもたちへ啓発していこうと考えている。他施設において地元の農業高校と連携しており、いろいろなことを研究しながら、子どもたちに伝えるようなことができれば、もっと良くなると思う。

利用状況については、繁忙期に大きな事業が入るが、それ以外の事業の際、使わない研修室等は一般の方々にも提供していく。1つの主催事業をやるからといって施設を貸し切りという形ではなく、安全に十分配慮しながら、使える施設については提供していこうと考えている。

収益については、経費の節減や、効率的な運営というところで、何が何でも収益のために事業をやるというようなことは考えていない。なるべく施設の設置目的に沿った事業を展開し、経費も見直しながら、効率的に進めていく。

(委員) 1つめは、地域の団体やボランティアと、いろいろ関わりがあるが、その関係を今後も築いていくのか。

2つめは施設の運営で、水槽のメンテナンスにかかる水道料について、予算が不足してると見えたが、どのように考えるか。

3つめは、Wi-Fi利用というところで、回線の整備についてどのように考えているか。

(申請者) 地域の団体とは、引き継ぎながら連携していきたいと思っている。また環境整備等、お手伝いいただけるところはお願いしたい。水槽については、実際に浜名湖の生き物の展示をしていきたい。基本的には浜名湖の水をそのまま使う。他施設のスタッフが、専門的な知識を持っているので、話をしている。

Wi-Fiは、グループのシステムサービス事業と連携しながら有線を引くが、費用が高額になるので、所管課と協議をしながらやっていく。

(委員) 収支計画について質問する。令和4年度と令和8年度で利用料収入を比較すると約1.5倍増の計画になっているが、思い通りにいかなかった時に、どのぐらいまでだったら、赤字にならずに済むのか。また、施設管理費に修繕料があるが、令和4年から令和8年にかけて、少しずつ増えている。利用者が増えるからといって修繕が増えるものではないと思うが、どういう考えでこの数字を作り上げたかをお聞きしたい。

もう1点、常勤職員の人件費は、残業代や手当も含めて提案された金額で本当にやっていけるのか。

(申請者) 令和4年分については平成30年を目安に考えているが、そこからどのぐらい人数が増えるか減るかというところを考えて、収入の組み立てをしてある。備品と経費の関係も、利用団体が少なければ減るということも現実的にはある。どこまで耐えられるかは、予定人数の1割減ぐらいまで何とか頑張れるかという感じである。

人件費は、最低賃金の値上げもあり、非正規の方々の給料についても相当上がってくると思うので、そのあたりを加味しているが、指定管理料と利用料金を踏まえた中で、この整理をするとすると、どこかで抑えないといけない。一方で、安全を担保しなくちゃいけないというところもあるので、なかなか厳しいところがあるかと思う。

修繕費については、いわゆる経年劣化の部分や県の所管課と協議する大型の部分もある。利用収入が増えることで、修繕についてはやらなくてはならないということで、毎年上げてあるというふうにお考えいただきたい。

(委員) 1つめは、利用料金を県が設定した上限ではなく、下回った形で設定をされている。ある程度満足できるサービス提供という設定の中で上限は決められているが、コスト競争力を高めるために料金を下げると、サービス面で満足度は得られるのか危惧がある。利用者を増やすことで、最終的に全体をカバーするというように設定されてると思うが、その考え方でよろしいか。

2つめは利用者を38,000人ぐらいから45,000人にするということは7,000人近く増やすことになる。学校利用を段階的に増やすという想定があるが、実際に、どこからどうやって引っ張ってこようとしているのか。実現可能性があるのかどうか、確認したい。

(申請者) 利用料金収入については、競争力を高めるということである。収支計画の中で、料金を下げても、質を落とさないような魅力的な事業とすることは十分可能と判断した。

(委員) そうすると人数が増えることが、満足を達成するための必要条件になってくる

という形でもよろしいか。

(申請者) はい。学校利用については、他施設の運営実績では年間利用が 45,000 人入っている。日帰り利用や、主催事業への参加も含めている。学校利用を増やしながらそうした人数も増やしていきたい。より学習効果の高い海洋プログラムとするために、終わった後の振り返りの充実や、事前学習の充実を図っていく。実施した学校からの口コミ評価なども期待しながら増やしていきたい。また、閑散期は、所員が学校を回りながら積極的に発信しながら、学校利用を増やしていきたい。

(委員) 学校利用を 3,000 人くらい増やすとなると、1回 100 人くらいとしても 30 校くらい増やす必要がある。実際に管理している近隣施設の利用者に代替的に回ってもらうのか、それとも他県も含めて新たな顧客を創造していくのか、どういう考えで利用者数増をイメージしているのか。

(申請者) 市町教育委員会に対しては、既に利用している施設とも併用した活動ができることを伝えて学校利用を促進する。他県にも積極的に広報しながら増やしていきたい。

現在利用が無い学校で、この施設に対して興味をもっている学校も多数あると聞いているので、声かけをしながら、利用促進を図っていきたい。

(委員) サービスが最終的には利用者数に依拠する形になるので、必ずこれが守られないと、施設の質が担保できないことを十分承知いただいた上で、やっていただきたい。

(申請者) はい。

—ヒアリング終了・採点—

<三ヶ日フィールドパートナーズ>

※プレゼンテーション (25 分) 省略

—ヒアリング要旨—

(委員長) これまでの豊富な実績を受けて、さらなる発展的な取組について、どのような見通しがあるのか伺いたい。

1 つめは、コロナを含めた安全対策として、感染症に対する対策や、地震の対策について、どのような見通しをお持ちか伺いたい。

2 つめは、所長が代わられるということなので、引き継ぎの見通しや考え方について伺いたい。

3 つめは、新規提案について随分控え目な印象もあるが、今後 5 年間の計画の中で、新しい社会の変わり目としての取組のビジョンを、発展性という観点で伺いたい。

(申請者) まずコロナに関しては、昨年度から所員全員で館内の消毒をしたり、地域の方々とも一緒に対策を考え、施設内の消毒を行ったりすることや、対策について利用団体の皆様にお伝えし、安心していただくということをしている。地震等の災害

については、毎月訓練を行っている。訓練で所員一同レベルアップし、どんな災害が起きても、安全に利用者を避難させることができる。

感染症への対応として、清掃等に加え、出前講座を活用した。コロナによって団体が来れないのであれば、所員が十分な感染対策を整えた上で学校へ出向き、自然体験の学習を提供するという事も行った。

2つめの所長が代わるところは、現副所長が次期所長になることでスキルダウンということはない。来年度、採用予定のスタッフは研修にも来ている。また、新しく校長経験者が入る予定であるので、教育面について、スキルアップにつなげていきたい。現在の所長が築いた外部のネットワークは引き続き活用し、新所長は現場の安全体制を守っていく。

3つめの新規提案については、水辺の自然の豊かなところで、自然をうまく使ったものを提供しないといけないと考えてる。中でも、ウォークラリー発祥の地としてウォークラリーやオリエンテーリングなど、現状あるものをさらに強化をしていくという考えでいる。また、利用者の声にも対応できるので、ご意見があれば、ぜひ皆様と一緒に施設を作っていきたいと考えている。

(委員) 2点質問する。

1つめは、風水害や地震の時、利用者の安全確保のために、連絡体制や避難誘導等、何を行うのかを具体的に教えていただきたい。

2つめは、海洋活動を行うにあたって、気象状況をもとに実施判断をどのようにされるのか伺う。

(申請者) 1点目について、私たちは、三ヶ日地区の各自治会の防災訓練にも参加し、地域と連携している。所員が帰宅してるときに自然災害等があった場合、地元の方が駆けつけるような協力体制を整えている。また、訓練は所員が研修生役ということもやっているが、地元の小学生との連携もって実施していきたいと考えている。利用者に対しては、入所時にオリエンテーションを行う。オリエンテーションでは、子どもたちに避難経路や館内利用の安全面について図を使って説明している。また、活動プログラムの中で、引率する指導者と所の指導担当者が、連絡を事前にとっておき、万が一の場合の避難場所を確認しておく。迷子等緊急事態には所員と一緒に捜索するなど、利用団体の指導者との連携を図っている。

2つめの海洋活動の天候の基準は、蒲郡のマリーナと連絡をとりながら、気象状況を事前に確認することも行っているが、風を冷たく感じた直後に土砂降りや雷ということが実際にあるため、地元の漁師から話を聞いたり、経験を積んだりしながらやっている。

(委員) 組織体制の準社員とボランティアの位置付けについて質問する。特に海洋活動の指導をする上でどういう責務を背負うのか。

(申請者) 常勤の所員は、通常、プログラム指導や経理関係を行う。ボランティアは、海洋活動があるときに来ていただく。非常勤、準社員については、指導部の者と一緒の指導を行うが、出勤日数が少ないということで、海洋活動など多くの人数が必要なときに当てはめるという勤務体制になる。

(委員) 責任を負うわけではないということか。

(申請者) 責任も同じである。

(委員) 海洋活動の安全について質問する。所長が代わったことによってどれぐらいの士気の低下があり、或いはその士気を戻すのにどれぐらいかかるのか教えていただきたい。

(申請者) 所長が代わっても、新しい体制では、120 パーセントから 130 パーセントの力を出せると思っている。現所長にも熱い思いがあるが、そのマインドを学び、受け継ぎつつ、積極的な姿勢でやっていく。

(委員) 食に関する部分と建物の経年劣化への対応について質問する。まず、食堂について、他の施設に比べると比較的狭い状態であることや、コロナ禍で黙食指導等の運営をしていると思うが、子どもたちが食事を楽しむことができるような工夫があるのか。

次に、建物は自然劣化していくが、古さを感じさせない工夫をどのようにしていくのか。

(申請者) 食事について、屋外でのカレーづくりやピザづくりなどを幼稚園や保育園の子どもたちが楽しみにしている。屋外で話をしながら食事ができるようなところに力を入れていかなければいけないと思っている。

経年劣化に関しては、現在も環境整備や安全対策をしているが、まだ不十分な部分がある。初心を忘れずに安全対策を実施するため、利用者の目線で改めてもう一度見直しをしていく。

(委員) ホームページを充実させるためには、この予算で足りるのか。また、福利厚生や修繕費の予算立ても不足ではないかと感じた。また、長期借入金について、これをどのように工面していくのか。

(申請者) ホームページについては、会社に作成する係がいて、サーバー等も持っているため、そこを活用しながら経費を抑えていく。今後、障がいのある方の団体にも活用していただきたいという思いがあり、全体の構成を変えていたり、音声ガイドなど工夫をしたりして、視覚障がいや聴覚障がいに対応する工夫を取り入れていきたい。

修繕の予算に関しては、例えば一隻船底を塗るだけで、外注すると高額な費用がかかるため、所員が塗料を買って自分たちで塗るなどして修繕費を抑えるという対応をしている。

長期借入金の件は、ヤタローとシップマンで構成する「三ヶ日フィールドパートナーズ」として、同じ家族と思って運営をしているので、お互いに助け合っていくものだと考えている。

(委員) まず、経費削減や収入増加に関して、力を入れていくところはあるか。

2点目は、繁忙期などは、休所日を開けるとか、休所日を使って研修を実施するという計画だが、職員の休暇はどうするのか。

(申請者) 経費を抑えることは、海洋活動に関する部分だけではなく、陸上についても所員自らが森の整備を行うことなどで削減ができると考えている。

大体、年間で 200 万から 240 万ぐらいを研修費としている。その部分では、収支上確かに赤字だが、「投資」と考え会社側で負担すべきと考えている。利用料収

入は、平成 30 年度の 85 パーセント程度と試算をしている。人件費については、最低賃金の引き上げがあったため、増額をしていきたいと考えている。

2 点目の職員の休暇は、利用団体がない日に多く入れていく。毎月決められた休暇はしっかり取得している。しっかりと休みを取らないと良い指導もできないので、休みにリフレッシュするということは進めている。

(委員) 1 つめは、利用料金について、条例の上限いっぱいまで利用料金を設定するという考え方でよろしいか。

2 つめは、利用者の確保について令和 8 年度に 40,000 人と見込んでいるが、令和 3 年度から 8 年度までの間の増え方については、どのように見込んでいるのか。

3 つめは、利用料金が上がると、利用者には負担増加になるので、それに対する説明と、実際に上がった分をサービスとしてどのように還元していくのか、その考え方について教えてほしい。

(申請者) 利用料金の上限に関しては、県立 4 施設の中でのバランスも考えていきたいと思うので、提案では上限額で試算している。

料金の上がった分については、新たに工夫をして、利用者にサービス面か、ハード面での還元を考えていく。

利用者の確保については、急に増加するのは難しいので、令和 3 年度が終わった時に、増やせそうな団体を分析し、広報することで、翌年から徐々にふやしていくというような流れをとりたい。

—ヒアリング終了・採点—

【ヒアリング後の採点結果】

- ・遠鉄アシスト（株） 75.88 点
- ・三ヶ日フィールドパートナーズ 79.81 点

—議事要旨—

※遠鉄アシスト（株）を「E社」、三ヶ日フィールドパートナーズを「M社」と表記する。

(委員長) それでは、協議を始める。ここでは気付いた点や採点の考え方などをお話しいただきたい。

(委員) E社については、受入れの考え方が、利用者数の増加に重きが置かれているような印象を受けた。M社は、障がいのある人の受入れや、外国人の受入れなどの主張は見ており、ビジョンが出されていると思った。

E社の提案の実現性については、満足できるような回答ではなかった。「とにかく頑張ります」という印象だった。

M社には、事業の発展性を質問したが、考えていることがはっきりしていた。所長が変わって、新しい体制でやっていこうという意思表示が見えた。

(委員) M社は、提案書やプレゼンテーションで、自分たちの持つてるよさを十分に伝

えきれていない部分はあったが、質問に対しての回答は、これまでの実績に裏付けされた回答であり、説得力があった。

E社も、トータルとして非常に緻密に計画されており、指定管理者としての意識や自覚はかなり強く持っている面はあったが、提案を実現できるかどうかという見通しについては、説得力に欠ける部分もあった。

(委員) E社については、様々な新しい提案がされているが、本当にその通りいくのかという部分は見えなかった。一方で、海洋活動についてはかなり準備されていることは感じた。

M社は、過去の経験に加えて、障がいのある人の受入れも評価できるが、これをどのように今後の利用者の増加につないでいくのかよく見えなかった。

(委員) M社は、所長が変わることに関して、海洋活動も含め全体の士気が下がるのではないかという心配があった。しかし、「(士気は) 120%」という表現で回答があったので、その点は自信があると理解した。(士気を) 80%から始まり、2年ぐらいかけて100%にするということではなく、「120%」と言い切ったところは評価ができたところである。

E社は、提案資料の事業計画の部分に関しては評価できるが、今日のプレゼンには、その達成に向けたエビデンスが無かった。それが自分の中では大きな不安に繋がった。M社は、過去何年間の実績というものがあるので、達成するエビデンスがあると言える。

(委員) 第3期の指定管理者候補者選定委員会でも、M社とE社の提案だったが、E社は今回の事業計画の成熟度が非常に高く、施設を十分に研究して提案されたことを感じた。企業のパワーとそのノウハウを結集して、三ヶ日青年の家を1ランク高いものにしてほしいと思い、E社を評価した。

M社は、全体的に古い考え方があると思っていたが、所長が新しく変わり、所員の構成が若くなっていることで、不安と同時に、この人たちでもう1期やって見せて欲しいという思いもある。

(委員) M社の協力体制というか姿勢がすごく感じ取れた。

E社は、利用者数を伸ばすことについては、自信があると理解した。

プレゼンについては、E社はプロ並みである。M社はプレゼンも資料の作り方も、今ひとつな部分があるが、気持ちについては感じられた。

また、M社の地震や風水害時に、地域の助け合いがあるという考え方も理解した。

E社の水槽の提案については、水の運搬は、プロがいるという回答だったが、そのあたりは不安であった。

(委員) 収支計画について質問をした。

M社は、修繕は自分たちで行うという回答であった。これは、経費削減よりも所員の負担が大きいという不安はある。

E社は、人件費の削減や、利用料収入が5年間で1.5倍まで上がることは本当に実現できるのかという疑問があり、またそれが実現できなかった時に、修繕料等、利用収入増に合わせて増やしている部分に手をつけるという回答であったこ

とに不安を抱いた。

(委員) まず、「三ケ日青年の家」としての役割についての考えである。(平成 22 年の) 事故や遺族との関係をどう受け止めているかというところで、E社からは、その言及が少し弱かった。一般的な青少年教育施設としての提案はよいが、「三ケ日青年の家」というところを考えたときに、それはどうなのかと受けとめた。もうひとつは利用料収入を 1.5 倍にするというところが大きな要素になっているが、コスト競争力について聞いたときに、少し疑問に思った。企業マインドをもつのは必要だが、青少年教育施設として、地域の中で利用者を取り合うなど、部分最適がなされて全体最適が崩れてしまうというところはどうかと感じた。もっと全体的に、地域みんなが盛り上がっていくような考え方をもちたいと難しい。利用料収入 1.5 倍の実現性に加えて、そうした姿勢も気になった。

M社は、コストに対して、明確な答えではなかったが、全体を通じて、誠意をもった説明と感じられた。

(委員長) 一通りご意見いただいたので、それぞれの意見について、質問や確認があればいただきたい。

(委員) E社の考えている集客については、実現できると思う。民間企業のパワーで、企業の研修等たくさん取り込んで、収支的には十分にやれると思う。

これだけ大きな施設でスケールメリットがあるので、可能であると思うが、逆にそれが少し商業主義的になり、青少年団体の利用に弊害が出てくることは危惧している。

(委員) 社会教育団体を育成することも施設の役割の一つと思っているので、評価は総合的に行うとしても、そこは気になる部分であった。

(委員長) 事故の御遺族との関係継続の仕方については、E社のプレゼンには、見えてこなかった。M社は現指定管理者なので、間違いなく続けていこうと思われる。

(委員) 事故を風化させない取組の大切さは、十分に認識しているが、このことを大切に踏まえた上で、新しい展開を見せて欲しいという思いがある。M社に今後の指定管理をお願いした場合、その点だけに引っ張られるような事業展開になってしまわないかという心配があり、それは何とか改善したいという思いがある。

(委員) 事故で亡くなった方のお父さんが、二度と事故が起きないように三ケ日青年の家で命の大切さを語る活動を、何回もやっていると聞いている。その活動は、当然引き継がれるべきものだし、(どちらが受託しても) 引き継がれるだろうなという予測はしている。

(委員) E社に対して質問による確認はしていないが、提案の中で出てこない時点で、そこは弱いと理解している。事故をどのように伝え、安全に生かしていくのかというものを施設の使命としてもっているのであれば、まず一番初めにそこが前に出てくるのがコンセプトとして重要である。

(委員) E社は、利用者数を 1.5 倍にするという大きな数字を掲げているという戦略の中で、社会教育施設としての役割も果たすというところがどうなのか見えてこなかったのが不安要素である。

一方でM社は、提案資料には令和 8 年度の利用者数が出ていて、4 年度～7 年

度についての言及がないので、利用者の増加に向けた戦略は、見通しが無いという不安はある。社会教育施設として利用者を増やすことに対する視点が足りない部分は、どう評価すればよいのか。

(委員長) 具体的に言うと、選定基準イに「利用者数の確保」があるため、そこで利用者数を増やすことについて見通しも含めて評価し、社会教育施設のあり方については、例えば選定基準アの「基本方針」に関わる場所として評価に反映されるようなものであると思う。

(委員) M社は利用者をどう増やしていくのかという戦略性について質問したが、明確な答えは無かった。

E社は、良い提案やプレゼンはあるが、それに対する裏付けはどうかというところがあつた。

(委員) E社は挑戦者なので、大胆な上乗せと新しい策を提案した。実現の可能性は、多少マイナスで評価されても、とにかく新しいことをやってみるという気持ちで切り込まなければいけない。私はそこを評価した。

(委員) 確かに立場が違うので、提案の出し方も変わるとは思う。

(委員) M社の利用者数については、資料には利用料の収入が少しずつ上がっていく計画が出ていたので、私はこのように進むだろうと理解している。

(委員) 収支計算をするために利用者数の計画はあるはずだが、ヒアリングで明確な答えは無かった。そこは戦略性をもって実施していくには難しい部分があつた。

(委員) 利用料収入については、M社の5年間での増加割合であれば実現可能と判断できるが、E社の(5年間で)1.5倍というのは本当に達成できるエビデンスが必要な増加割合である。しかもそこで得た金額を前提に経費を使うという数字ができ上がり、得られなければ経費を削るといふようなことだと、不安があると非常に感じたところだつた。

(委員) 例えば他の指定管理を受けた施設で、一番伸びたところの伸び率の実績も確認できると良かったとは思ふ。

(委員長) 意見も出尽くしたようなので、意見交換を閉じ、採点の修正をお願いしたい。

【採点の修正】

(委員長) 事務局から採点集計の結果発表をお願いしたい。

【意見交換後の採点結果】

- ・遠鉄アシスト(株) 75.91点
- ・三ヶ日フィールドパートナーズ 79.56点

(委員長) それでは、この採点結果を受けてご意見を伺いたい。

(委員) M社は社会教育の立場として地域から学ぶ、学びながら自分たちも育っていくという謙虚さがあつたと思う。

E社は企業体としてのパワーはあるが、指定管理者としては、その点ばかりで良

いのかということもある。これは制度に対する問題でもある。

M社の、地域から学ぼうとする伝統的な社会教育のあり方は大事なところであり、M社が選定されるとすれば、そういうところが強みになっていくと思った。

(委員) 結果については、トータル数字に反映された通りでよいと思う。ただ、項目ごとに比較した時には、E社が魅力ある提案として評価されている項目もあるので、そこはM社も謙虚に受けとめ、自分たちが努力目標として何に取り組むべきかを考えていただくのが良いと思った。

安全に関する部分では、やはりこれまでの実績が評価されたが、さらにより安全・安心になるように取り組んでいただきたい。

(委員) 非常に微妙な差で、M社を選ぶことになったのが、今回の結論だと思う。

海洋活動がこの施設の特徴なので、そこに実績を持っており、しかも安全を踏まえた上でやってきたという、M社のこれまでの取組が一つ評価された。

E社も海洋活動については準備をしたが、様々な事業をこれからどうやって伸ばしていくかというところで、いささか根拠の足りないところが見えた。

M社は、利用者を増やしていく見通しが今日のプレゼンでは具体的に見えなかったもので、今後、検討してもらおうとよい。

(委員) 資料は、E社が作りこんできたが、今日のプレゼンやヒアリングでもわかったように、資料だけで判断することはできなかった。

M社は、ここ何年かの実績と、所長が代わることについては、今回「新たなチャレンジ」としての可能性に賭けるということで評価できる。

(委員) 商業主義になると、県民の平等な使用の確保とサービス向上のところに懸念が出る。選定基準アの点差にそれが表れた。また、事故を含めた安全管理の体制等については、E社はより言及されないと難しかったという感想である。

M社は、これから新しい所長を中心に、若いスタッフが施設を作り上げていくとするのなら、施設のPRやウェブの活用、ホームページの充実などいわゆる集客面で未開拓の部分があるので、その取組を期待したい。

(委員) M社は世代交代や、多様性を認めているいろいろな団体と交流しているところに共感をもった。

(委員) 大接戦で紙一重の差であったように思う。

M社は、これまでの実績や、青少年教育施設としての役割、安全の部分が評価されているが、他の部分は、ちょっと弱いところがある。今後、利用者をどう増やしていくかという考えや、ウェブ戦略もやっていかなければいけない。それは要望として伝え、今後5年間しっかりやっていただきたい。

(委員) この施設の役割の理解が、差として表れていた。青少年施設と見るのか、それとも商業的なものも含めて考えるのか、そこの違いもあった。M社は、マネジメント面では高めなければならない部分がある。もう少しマーケティングも含め、経営戦略を高めていくことは必要だろう。

(委員長) まとめると、社会教育施設として、どう考えているかという意識の違いが大きかった。

もう一つ、加えるとすれば、障がいのある人等、様々な方への生涯学習支援が

求められ、共生社会やインクルージョンと言われている中で、M社がそういう人たちに対して、分け隔てなく平等にやっていく意識は高いと感じ、その差もあった。

(委員長) それではこの点数をもって、M社を、今回の指定管理者候補者としてよろしいか。

(委員一同) はい。

(委員長) それではM社を指定管理者候補ということで、取り計らうようお願いする。

(委員長) 今後、M社には指定管理をするにあたり、こちらから要望を伝える機会もある。一つは、現在、社会教育でも経営感覚が求められているので、施設においても、利用者の確保について、経営戦略をもち、新しい情報をどんどん取り入れて、勉強していただきたい旨を伝えたい。

他にも要望があればいただきたい。

(委員) 浜名湖を海洋活動の拠点に加えて、SDGsの環境教育のメッカとして、もっと高めてほしい。「SDGsと言えは三ヶ日青年の家」というところまで高められたら、素晴らしいことである。

(委員長) 浜名湖とSDGsは非常に相性の良い考え方なので、期待したいと思う。

所長も代わり、新しい体制に変わるということなので、新しい発想も取り入れていただきたい。

(委員長) それでは、これで協議を終了する。

— 閉 会 —